

## 17. 高圧酸素療法により治癒したガス壊疽の一症例

川合 秀治\* 梅村 博也\* 白羽 誠\*  
久山 健\*

最近、我々は高圧酸素療法等の処置により救命し得たガス壊疽の一症例を経験したので報告する。

症例は41才男性で、糖尿病にて某医受診中、右大腿部の激痛、局所の熱感腫脹を来たした。単純X線写真にて大量の皮下異常ガス像を認め、ガス壊疽の疑いにて本科入院となった。入院後直ちに局所の切開(7ヶ所)、2気圧1時間の高圧酸素療法(その後10日間続行)、大量の抗生物質(Peni-

cillin tetracyclin 系を中心とした)の投与を施行した。下肢筋肉の壊死を来たしたのであるが、治療後約50日目には機能障害を残すことなく歩行可能となり、約120日目に軽快退院した。

本症例はいわゆる Non-Clostridial myonecrosis であるが Wills らの報告にある通り、基礎疾患に糖尿病を持つ場合、予後はきわめて不良である。しかし早期の適切なる高圧酸素療法の導入に依り、救命、機能回復も不可能ではないと考える。